

# ことう地域チームケア研究会たより

第 19号発行 平成28年3月30日

日時：平成28年3月10日(木) 18:30~20:30

会場：くすのきセンター1 階研修室

参加者：72名(医療関係者27名、福祉関係者30名、行政等15名)



今回のテーマは...

## 『ケアマネジャーの役割とは～生活を支えるための様々な関わり～』

(彦根愛知犬上介護支援専門員連絡協議会)

### 〈話題提供1〉

『車いすになっても自宅で一人暮らしを続けたい』  
星津智泉さん(居宅介護支援センター 元気村)



#### 【本人の思い、意向】

- ①車椅子生活になってしまったが、自宅で暮らしたい。
- ②自宅で頻繁に転倒するので転ばないようにしたい。リハビリしたい。
- ③一人暮らしなのでいろいろと考えすぎることがあり、気が滅入ったり、落ち込んだりするので気持ち良くしたい。
- ④買物や掃除洗濯、入浴などできないこともあるので助けて欲しい。(入浴は自宅でしたい)

ケアマネとしての思い；身体的にはレベルが落ちてきているが、「自宅で暮らしたい」という本人の強い思い、決意を尊重したい。地域の方々との交流も続いており、支援も期待できることから、専門職と地域の方々の多職種協働により自宅での生活の維持ができるのではないかと考える。

#### 【支援内容】

- 【フォーマルサービス】
- ・ヘルパーサービス；週3回、入浴介助、買物外出と代行、通院介助、掃除や洗濯、一部調理。
- ・デイサービス；週3回
- ・福祉用具レンタル；電動ベッド、車椅子、手すりメッソ

- 【インフォーマル】
- ・日常生活自立支援事業
- ・ご近所の支援；見守りや話し相手、外食や美容室への連れ出し、選挙、急な通院時の対応など。

この人の生活を支えるためにもっと網の目の細かい関係者相関図が描けるように支援チームをつくりたい。そのためのCMの役割とは。

#### 【関係者相関図】



本人の強みを生かし、人と人とのより良い関係が保てるように調整役となり、つながりを深め、支援チームをつくりだす

### 〈話題提供2〉

『一世帯に二つの支援チームが関わって』  
辻 広美さん(ケアプランセンター どりーむ)



#### 【概況】

本人は要介護状態で、介護保険サービスを利用。子と二人暮らし。  
子は療育手帳保持者。障害者総合支援法にて、自立支援給付と地域生活支援事業を受給。ヘルパーによる掃除援助、移動支援による買い物介助、週1回作業所を利用  
本人が緊急入院となったことで、この家族の状況の変化を懸念し今後の支援を検討。

本人の思い；息子の生活を支えているのは自分だと思っていたが、入院中息子は自分がいなくても頑張って生活できたことを考えると、自分も息子に支えられていたんやと気がついた。  
今までは、デイサービスに行く理由が自分にはない。息子の心配もあり、そんなことを考える気にもならなかったが、これを機に外の人も交流してみたい。家でお風呂に入るのも不安があったので、風呂も外で世話になりたいと思います。

本人と子に適用される制度は別だが、その世帯に必要な支援は、互いに、本人だけでなく家族も捉えた支援でなくてはならない。二つの制度による支援がその家族にとって安心した暮らしにつながっていくように複数の制度・チームでの支援を考える際のCMの役割とは。

介護保険制度 ケアマネジャー  
障害者総合支援法 担当相談員

**情報交換、情報共有**

一軒の家を支える二つの支援チームの専門職が  
**顔の見える関係をつくり、手をつなぐ**

様々な制度との連携。本人、支援者の思いを二つのチームで共有できるようにし、一体的な支援体制をつくりだす

## 交流会・自己紹介タイム

～感想・自分たちができること・もっと知りたいこと～  
今、私たちができること・思うこと

9つのグループに分かれて交流会を行いました。

17名のケアマネジャー、地域包括支援センター職員の方に各グループに入っていた  
だき、事例についての感想や日頃の思いを話し合いました。グループ交流会の後、4つのグループから発表、  
そして、参加者全体での意見交換を行いました。



初

## 全体ディスカッション

「好評でした」

司会・進行はCM協議会の辻さん。  
各職種からの意見を全体で共有することが  
できました!(^\_^)!

### ケアマネジャーに期待する事など～各専門職から～



ざっくばらんに



- 【看護師(訪問)】 「相談した時にすぐ対応してくれるので助かる。」
- 【理学療法士(病)】 「今後の方針を決める時に入院前のADL情報は重要。情報提供をお願いします」
- 【薬剤師】 「残薬確認が薬剤師だけではできないので、日頃の確認の協力をお願いしたい」
- 【歯科衛生士】 「食べられない場合に、食べ物の変更ではなく、まず口の評価を。口の評価、嚥下の評価は専門家に任せて、つないでほしい。」
- 【歯科医師】 「どの地域でも歯科は支援チームに入りにくいといわれている。在宅ケアの一員として歯科医が活躍できるように相談してほしい。治療だけでなく嚥下や口腔に関することをどんどん質問相談してくれることでチームに入りやすい」
- 【医師】 「医師に遠慮しているCM多い。遠慮せず医師に相談を。サービス提供表は医師にも出してほしい。往診などの調整もできる。」「連携の際に難しいと思う職種はありますか？本音を聞かせてほしい。」

### ケアマネジャーの思い 他職種へ伝えたいこと

※「(別紙)こんなこと思いました」に、グループ交流会での  
意見を掲載しています。こちらもぜひご覧ください。

- ◆「ご家族の意向で支援の方向が変わってくる場合も。本人と家族の思いの間で調整が難しいと感じることがある」
- ◆「サービスを考える時に支援者の意見がまとまらない場合、どこで折り合いをつけるかを悩む。」
- ◆「専門職同士、意見を交わし合い強い支援チームができる。職種としてチームの作りづらさを感じる職種はない。」
- ◇「制度の壁や制度の狭間にある場合の支援の困難さを感じる。行政機関との連携や協力が必要」
- ◇「専門職の方をうまくつなぐためにCMも多職種に助けてと言えるようにしていきたい。また、他の職種からも積極的なかわりを提案していただけるとありがたい。」
- ◇「認知症の方への対応について。利用者さんにとって先生は特別な存在。これからも優しい声掛けをお願いします。」



この全体会での意見交換を通して、  
専門職一人ひとりが互いにチームケ  
アを意識して、より専門性を発揮あ  
るために、今より一歩前へ踏み出  
し、手をつないでいこうという思い  
を確認することができました。



## ご参加ください！ ことう地域チームケア研究会

お知らせメールの  
登録をお願いします

研究会の開催状況や、次回のご案内をメールでお知らせします。ご希望の方は、①お名前②ご所属③ひとこと をいれて事務局までメール送信してください ☆事務局 (mail) [info@gen-ai-ken-kaigo.jp](mailto:info@gen-ai-ken-kaigo.jp)



次回は・・・平成28年5月12日(木) 18:30～20:30

テーマ：『活動の原動力「食べる/栄養」を考える』

会場：くすのきセンター1階研修室

担当団体：湖東圏域の病院(相談支援部門)・湖東圏域のリハビリ職

- \*申し込みは不要です。当日会場へお越しください
- \*問い合わせ先：ことう地域チームケア研究会事務局  
彦根愛知犬上介護保険事業者協議会 (TEL 49-2455)  
彦根市医療福祉推進課 (TEL 24-0828)

HP「在宅医療福祉の森」でも研究会の  
ホームページをご覧ください。

